



森のひろば



39号

2004年 8 月発行 宇佐市民図書館

大人たちへ

スハード

どうして戦争を始めたのですか
私たちは戦争なんて望んでいません
他の国の人たちと平和に過ごしたいのです

どうして戦争なんて起こしたのですか。どうして？
私たちは平和を愛しています

平和を求めているんです

私たちの国には資源がいっぱい

そして私たちはイラク人です

どうして戦争なんて起こしたのですか。どうして？
どうか私たちの疑問にこたえてください

私たちはとても怒っています

怒りの気持ちでいっぱいです

私たちは戦争なんてきらいです

戦争なんて望んでいません

平和、平和がほしいんです

『おにいちゃん、死んじゃった』より

二〇〇三年三月、イラクで戦争がはじまりました。

今はばくだんを落とすような戦いはおわっていますが、多くの子どもたちが大切な家ぞくをなくして悲しい思いをしています。



日本でも、59年前におわった戦争でいろいろな場所で空襲があり、多くの人々が家を焼かれました。とくにヒロシマ、ナガサキには原子ばくだんが落とされ、多くの人がなくなりました。

そして同じころ、日本の南の島、オキナワには空からだけではなく、陸からもアメリカ軍がやってきたため、多くの市民が戦いに直接まきこまれてしまいました。

そんな当時のようすをえがいたおはなしが『対馬丸一さようなら沖縄』です。戦争によってオキナワの人たちがどうなっていったのか。ほくが、わたしがこの時代に生きていたらどう思ったのだろうかということを考えながらぜひ、読んでみてください。



おきなわ
沖縄で六十年前に本当にあったおはなしです。子どもたちも戦争で苦しみました。

『対馬丸—さようなら沖縄』

▽ヤマトへの「疎開」
大城立裕

清はいつかヤマトへいきたいと思っていた。本土には、ここ沖縄にはない大きな都市があり、汽車や電車が走っている。でかかて一度のってみたい。だが、いまはちがう。清には、勇と健治というなかよしがいて、毎日のように海にもぐり魚をおって遊ぶ。さいきんうれしくないのは—学校のようすがかわったことだ。

昭和十九年七月。学校は兵隊さんの宿舎になったために清たちの教室は那覇港近くの砂糖倉庫にかわってしまった。けれど、担任の宮里先生は教室がかわっても、あ

いかわらず大きな声で、「…どうだ、ヤマトへいってみないか。みんなでヤマトへいって集団でくらすんだ。」

それが「疎開」ということだと、先生は言った。清にとって、ヤマトが一度にちかくなった。

しかし、先生の心のかたすみでは、「疎開」のもう一つの理由をおもいうかべて胸をいためていた。人口三十万の沖縄に、十万人の兵隊がはいってきたからには、はいってきたぶんだけ人をださないと、食べものがたらなくなる。それには、戦いに足手まといの子ども、年より、女を島からだそうということだった。戦争のための人べらしなのだ。しかし、それはいえないことだった。やがてお国のお役にたつ「疎開」だといった

てて父兄をときふせにまわるしかなかった。

▽対馬丸にのりこむ

昭和十九年八月二十一日。

集合地には五千人の疎開者と見送り人が集まってきた。清たちはいよいよヤマトへいけると船にのりこんだ。その船—対馬丸は大型船といっても、外海をゆくには、これ以下はないくらい古くなったやつで、やっと七ノット(時速約十三キロ)のスピードしかだせないしろものだった。出発してからほとんどの者はつかれてねむっているのに、清たちはねむれない。



ヤマトのことについて話していた。

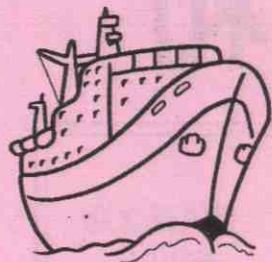
次の日、魚雷船がやってきて対馬丸にむかって命中爆発した。どくあああん!

海水がどつとながれこんできた。先生たちは船内を駆けまわり、子どもたちをたたきおこしはじめた。誰かにふみつけられて清はとびおきて、なんとか海にとびこんだ。

対馬丸が、すさまじい爆発で、白く光った……。

海の中で波間に船かけをみつけた清はけんめいに手旗信号をおくった。

タスケテクレ
そして、清は漁船にたすけられた。



▽生きのこった清

対馬丸沈没のニュースはひたかくしにされた。それでも、うわさは沖縄にとどいていた。うわさをたしかめに市長室をたずねた校長に、市長はデマだと、あいてにされなかった。なにもきいておらん。情報ははいっておらんと、つっぱねるだけだった。

そんな島の北部山村の運天港に、一隻の漁船がついた。

船には、清ら五人の子どもたちがのせられており、憲兵(軍隊で警察の役目をする兵隊)が引率していた。岸壁のまわりは、警官がきびしくみはっていた。五人は船からおろされると—ほろつきのトラックに、つみこまれた。そして警察へつれていかれて憲兵がかみつくようにいいわたした。

「ただいまからおまえたを特別のはからいで親もとにかえす。だ

が、対馬丸のことは、しゃべってはならん。しゃべればスパイ行為である。スパイは銃殺刑である……

五人はうなだれた。

やけつくような日照りのなか、那覇市外を走る五台の人力車。ぬのをかけ、罪人をはこぶのおなじあつかいだ。やがて、人力車はしずかに清の家につけられ、清はだまって人力車からおりる。母さんがとびだしてきた。父さんが家のまえにたってまわっていてくれた。しかし、清はことばをなくしていた……



8月の特集



戦争・平和

『デイゴの花』
『萌えろガジュマル』
『びんたあめあられ』

『白い町ヒロシマ』
『飛べ千羽づる』

桜井信夫
久手堅憲俊

水谷章三
木村靖子
宮川ひろ

『えんぴつびな』
『りゅう子の白い旗』
『かわいそうなぞう』
『ちいちゃんのかげおくり』

『チロヌップのきつね』

長崎源之助
新川明

つつやゆきお
あまんきみこ

たかはしひろゆき

『バイオリンの村』
『おきなわ島のこえ 又チドウタカラ
(いのちこそたから)』

赤座憲久

丸木俊

『絵本 火垂るの墓』
『わたしのいもうと』
『ムツちゃん』

野坂昭如

松谷みよ子

中尾町子

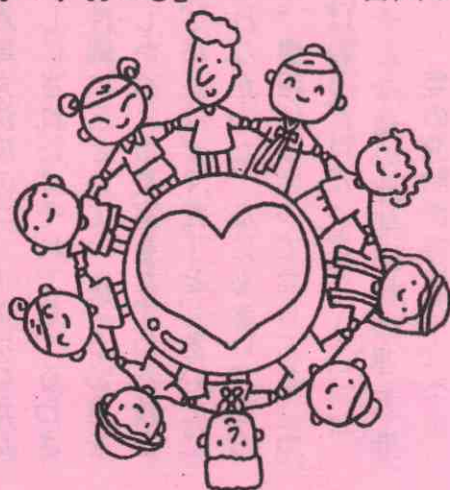
『おとなになれなかった弟たちに・・・』

米倉齊加年

『かあさんのうた』

大野允子

(ほかにもたくさんあります)



ウサギ



先月号の答え／



夏休みも『ほんの森号』は
走っているよ！夏休み前に返し
わすれた本はないかな？

としょかんまでとおい人は
『ほんの森号』まで返しにいくと
いいね！

『ほんの森号』は新学期もみんな
をまっているよー！

うさしみんとしよかん
宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田1017-1

でんわ 0978-33-4600

ファックス 0978-33-4679